



小牧徳彦
 京都府の北部、京丹後市で15周年を迎えた「マーキーズMCカフェ」を経営。53歳。15周年記念アイテムはもちろんワークシャツ。自分で作り上げた52年式Vンヘッドチョップバー所有。リーゼントがトレードマーク。
 Photo: Ken Omoto Text: Shigeyuki Omori



15年ほど前、古着屋時代に仕入れた商品の中に1枚のシャツを見つけた。それがマーキーズさんとワークシャツの出会いだった。それからには気に入ったものがあれば自分のものにして、毎日ワークシャツで過ごすようになる。商売を古着屋から現在のカフェに変えてからも、古着屋を見つけたら必ず店内をのぞきワークシャツを探してしまう。最近ではリサイズ、サイズはあまり気にしない。極端に小さかったり大きかったりさえしなければ、色やデザインが気に入れば買ってしまっ。少し小さいくらいなら前を開けて着るし、ちょっとくらい余裕があるのは問題ない。思った以上に大きかったりすると、店に飾ったり、まわりの誰かに譲ったりしてきた。いったいワークシャツの何がそこまでマーキーズさんを夢中にさせたのか。

「楽に着られるのがいよね」簡単にそう答えてくれる。色は赤か黒が好きで、その色が「ロックな感じ」だし、デザインはトラパンやタイスが好きだという。白いTシャツの上に着るのが定番。どんなに暑くてもそれではいる。バイカーに人気のブラックTも持っている。あまり着ることはない。同じく楽に着られるという理由ならアロハも好きだが、アロハは着る場所が限られてしまっ。そんな理由が重なってマーキーズさんを夢中にさせているようだ。カフェという販売柄水を使うから、半袖が基本。気に入れば長袖のワークシャツも買うが、袖を捲るの好きではないので半袖にカスタムしてしまっ。

ワークシャツの定義は「半袖で裾は真っすぐ」がマーキーズ流だ。今でも気に入るものがあると買ってしまっ。古着で5000円までというほとんどなくのルールも存在しているから、それほど金がかかるものでもない。だからこの先もコレクションはどんどん増えていくだろう。カフェに行ったらマスターのシャツも要チェックだ。

ロックにリーゼントにワークシャツ!!



「ムーンアイズ」京都店オリジナル。9年前に購入。バックは刺繍。



変わり種「ヒステリックグラマー」のもの。10年ほど前に購入。

ご存じ、スカルフライトのワークシャツ。バイク乗り用だけに丈夫な作り。



ブーツメーカー「ウエスコ」はオーケイションで発見。長袖を半袖にカスタムした。



3年前に和柄テイストのスライダーがクールで購入。お気に入りだ。



15年ほど前、古着屋時代に仕入れたもの。アメリカの板金屋のフロントだと思われ。



どこでいつ購入したかも記憶にない、アメリカの普通の作業服。



5年前に古着で購入。ホットロッド系のデザインと、胸のラインや色の切り返しが好き。

